

第一章活用事例

中学校版「心みつめて」 p.32
自分の生命を… 九條 武子

「江戸切子への道」(小・中学校 東京都道德教育読み物
資料集 平成二十三年三月 東京都教育委員会)

【主題名】 働くことの意義

4・⑤「勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。」

【ねらい】 勤労の尊さや意義を理解し、勤労を通して社会の発展に尽くすことへの態度を育む。

《ねらいとする道徳的価値について》中学生の時期は、自分の進路や職業について関心が高くなってきます。また、職場体験学習のように、直接人々が働く場面に触れる機会も多くなります。生きがいのある人生を実現していくために、働くことの尊さや意義についての理解を通して、職業についての正しい考え方や、勤労を通して社会の発展に尽くそうとする態度を養うことが大切です。

導入



「あなたは将来、どのような職業に就きたいと考えていますか。また、どのようなことを基準に、その職業を選んだのですか。」

○自分の職業観・勤労観を確かめさせて、ねらいとする道徳的価値への関心を高める。

○教師が「江戸切子への道」を範読する。



「中学校を卒業して江戸切子の工房に入ることを選んだ時、横井さんはどのようなことを考えていたのだろうか。」

○自分の置かれている状況を考えて進路を決めつつも、働くという実感はもてずにいる横井さんの心情を捉えさせる。

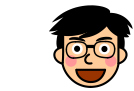


「江戸切子の工房で修行しながら、横井さんはどのようなことを考えていたのだろうか。」

○休みのない毎日や単調な作業の連続に不満を抱きつつも、そんな自分を厳しく導く師匠の職人としての誇りや情熱に感動し、自分もしっかりと修行をして一人前の職人になろうと決意する横井さんの姿に着目させ、働くことの意味や意義について理解を深めさせるようにする。

展開

中心発問



「独立した自分の工房にお客さんからのクレームがきた時、横井さんはどのようなことを考えたのだろうか。」

○横井さんが師匠から受け継いだ「お客さんのために」という心とはどのようなものかを考えさせながら、勤労を通して社会に貢献していくことの尊さについて理解を深め、そのような生き方をしていることとする態度を養わせる。

《評価》 働くことの意義やそこに伴う責任、勤労を通しての社会貢献や勤労と生きがいとの関連について理解を深め、自らもそのような生き方をしていることとする態度を育むことができたか。



「横井さんの言葉にある『生きがいのある人生』とは、どのようなものだろうか。」

○「心みつめて」第一章 p.32の九條武子の言葉を全員で読み、「生命は仕事とともに不滅である」の部分の意味についても考えさせながら、どのような人生が「生きがいのある人生」なのか、グループで話し合い、発表する

終末

【資料の特徴】 九條武子は、京都女子大学の設立を推進するなど女子高等教育の発展に尽力し、また、関東大震災の際には、自らも罹災しながら被災者の救援活動に献身的に取り組みました。この言葉からは、自己実現を図りながら自分の全てを捧げて社会のために貢献することこそが、働くことの意義であるという強い思いが伝わってきます。働くことの尊さについて考えさせられる言葉です。

板書例

将来就きたい職業は？
その職業を選んだ基準は？

江戸切子への道

中学校を卒業して江戸切子の工房に入ることを選んだ時、横井さんはどのようなことを考えていたのだろうか。

- 兄にこれ以上迷惑をかけたくない。
- 自分の得意なことが生かせる職業に就きたい。
- 自分が働くという実感は、まだもてない。

江戸切子の工房で修行しながら、横井さんはどのようなことを考えていたのだろうか。

- 休みがないのはつらい。
- 単調な作業ばかりでやりがいが感じられない。
- 一つになったら師匠や兄弟子のような重要な作業をやらせてもらえるのだろう。

○ 師匠の、職人としての誇りに満ちた姿や江戸切子に注ぐ情熱はすごい。自分もいつか、師匠のような一人前の職人になってみせる。

独立した自分の工房にお客さんからのクレームがきた時、横井さんはどのようなことを考えたのだろうか。

- 忙しさに追われて、商品やお客さんを大切に思う気持ちも忘れてしまっていた。
- 失ってしまったお客さんからの信頼を取り戻さなければ。
- 師匠から受け継いだ「お客さんのために」という心を見つめ直して、一つ一つ心を込めていこう。
- お客さんの満足した顔を見ることが職人の喜びなのだ。

横井さんの言葉にある「生きがいのある人生」とは、どのようなものだろうか。

九條武子の言葉

- 自分の仕事にやりがいを感じ、その仕事を通して誰かの役に立っていると実感できるような人生。
- 自分の全力を注ぐことができる仕事をもつていて、つらいことや苦しいことがあってもそれを乗り越えて仕事をやり遂げ、その達成の喜びを感じながら生きていく人生。
- 社会の中での自分の役割や使命を理解して、それを果たしていくことで、自分も周囲の人も幸せになっていけるような人生。

自分の生命を打ちこむことの出来る仕事をもっているものは幸福である。…

……

《評価》

勤労の尊さや意義を理解し、勤労を通して社会の発展に尽くそうとする態度を育むことができたか。